



あれこれ通信

しぶやとみこの議会報告

NO. 65

2011年5月5日

渋谷とみ子の会

埼玉県比企郡嵐山町平沢 254-64

Tel / Fax 0493 -62-7997

<http://www.k2.dion.ne.jp/~saiko/shibuya/>

Eメール shibuya97@s4.dion.ne.jp

いのちを未来につなぐために必要なことは、
再生可能エネルギーによるCO₂の削減です。

地震・津波・福島原発事故と、3月11日以降の私たちの生活は変わりました。変えなくては、人類を含め生き物は、放射能汚染で危険です。

1986年にチェルノブイリ原発事故があった当時、私は0才、2才、6才の3人の子育て中でした。食べ物の放射能汚染が気になり、輸入食材は使わないと決めました。

25年経ち、福島原発事故です。

工ネルギー資源のない日本は、原子力の平和利用という名目で、地震国であることを無視し、原子力発電を推進しました。地球温暖化対策にも貢献するというのです。日本で最もCO₂を排出するのは電力会社です。原発は、原子力で電力をつくる時、CO₂削減しても、ウラン採掘・濃縮・加工、老朽化した原発を廃炉にする時、事故処理時の電力でCO₂を大量排出します。

2050年までに平均気温の上昇を産業革命時代より2℃以内に抑えなければ、地球は取り返しのつかないダメージを受けることを理由に、日本は、原子力で電力をつくりCO₂削減すると原発を、原発は安全だと安全神話をふりまき、推進してきました。

原発は電力製造ではCO₂を排出しないのですが、放射能をだし、原発の管理にCO₂を排出します。

原発は、発電に使う核燃料の管理と使い終わった核燃料の放射能放出の拡散を防ぐため100年以上安全に保管する期間が必要

です。管理が難しいので地球上の生命を脅かし続けています。福島原発事故は、作業者と住民の安全を二の次にして、放射能を拡散しつつ収束させるしかなく、汚染は広がっています。



安全な将来には、原発を廃止して、CO₂を削減していく必要があります。低エネルギー、低炭素社会に方向転換

する時です。太陽・風・樹木等の自然を利用する再生可能エネルギーを活用して、1歩進めましょう。嵐山町議会文教厚生委員会(青柳・金丸・川口・長島・藤野・柳・渋谷)は6月に(仮称)地球温暖化対策推進条例案を制定予定です。

嵐山町の1歩、日本の町村では初めてです。原発事故以後、計画停電や節電でCO₂

を削減しました。建物や生活を工夫し、日常的に節電し、太陽・森林資源のクリーンエネルギーに転換し、ガソリン自動車の利用を少なくすることで、地球温暖化による被害から次世代の生活を守ることができます。里山保全で緑によるCO₂吸収力を増やすことができます。

国はエネルギー政策の転換、嵐山町は、嵐山町のCO₂排出量を推定し、削減目標をたて、日々の暮らしからCO₂を削減していきましょう。